

ホタテ貝殻を有効活用した食品トレーを開発

北海道経済連合会の協力のもと、4社が連携。水産資源の有効活用と石油由来樹脂の使用低減を通じ、循環型経済と脱炭素社会の実現をめざす道内連携の新しい取り組み。



日本タルク株式会社



株式会社 イノベックス



包装資材の総合メーカー
極東高分子株式会社



三井物産プラスチック株式会社

地域課題解決 水産資源の有効活用

北海道森町で地域課題となっていた未利用資源のホタテ貝殻活用の新たなアップサイクル策の1つとして、ホタテパウダー入り食品トレーを開発いたしました。北海道のホタテ産業の持続可能な発展とともに、北海道発の脱炭素社会の実現につなげてまいります。



サーキュラーエコノミー

石油由来樹脂の使用比率低減
北海道内での未焼成加工によるCO2削減
食品接触可能なホタテパウダー

地域資源を循環させ、北海道からサステナブルな未来へ

ホタテ貝殻という「地域の課題」を「地球の宝」に変える——これが私たちの挑戦です。

日本タルクの鉱物加工技術、イノベックスの配合技術とシーティング技術、極東高分子の成形技術、三井物産プラスチックのグローバルネットワーク。

4社が手を合わせることで、未利用資源が環境配慮型製品へと生まれ変わり、北海道のホタテ産業の持続可能な発展と脱炭素社会の実現を同時に追求します。

リサイクル可能なバイオマス素材を循環させることで、北海道の美しい自然と資源を守り、地球全体の未来に貢献します。

年間発生量約1.2万トン の貝殻を資源化へ / 2027年上市予定



ホタテ貝殻



ホタテパウダー

(日本タルク(株)製ホタテパウダー-TKD)



ホタテパウダー入り食品トレー
(極東高分子(株)製)

* ホタテパウダー20%入り
* 黒色がホタテパウダー入りトレー

【お問い合わせ先】

三井物産プラスチック株式会社 CE・次世代ビジネス推進グループ

メール: MBP-TGSG-TKZCL@mitsui-plastics.com



ニュースリリース記事